伊豆大島の地殻変動*

Crustal Deformations in Izu-Oshima

国土地理院
Geographical Survey Institute

第1図(a)-(c)および第2図は，水準測量による伊豆大島の上下変動である。

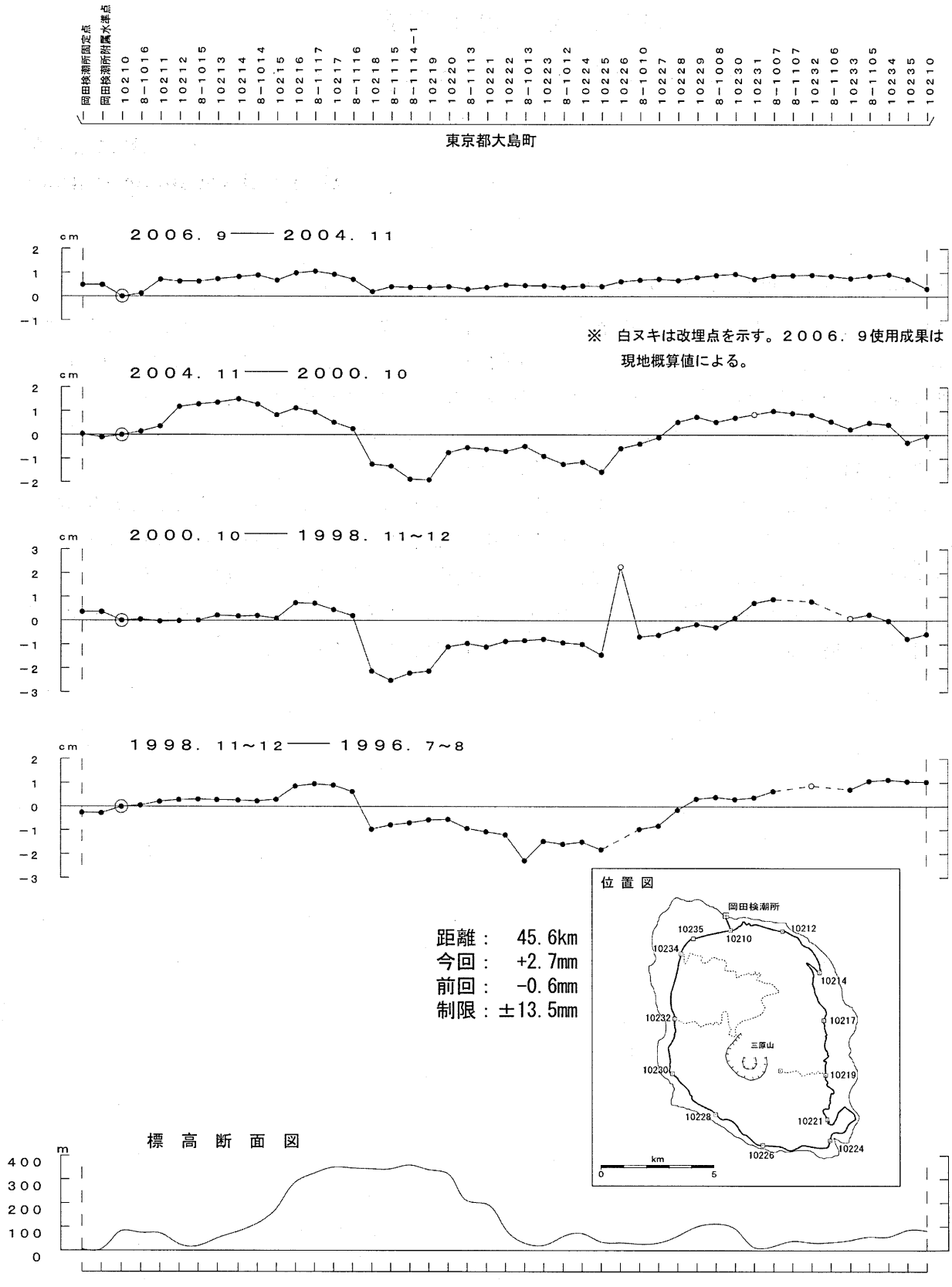
第1図(a)に示す島の外周を一周する路線（岡田港固定）では，1986 年噴火時に大きく沈降した水準点 10219 付近（島の南東部）は現在でも沈降が継続している。また，波浮に近い水準点 10215 付近でも沈降傾向が続いている。全体的な傾向として相対的に島の東部と西部が隆起している。

第1図(b)は，島の北西部からカルデラ縁の一部を経由して北部に至る内周路線であるが，1986 年噴火の C 火口列の近くの点 0-1011 の沈降が継続している。

今回の測量から，新たに実施することにした南東部の外周道路から二子山に至る東京大学地震研究所が設置した路線の上下変動（1994-2006）を第1図(c)に示す。系統的な東落ちの傾向がある。

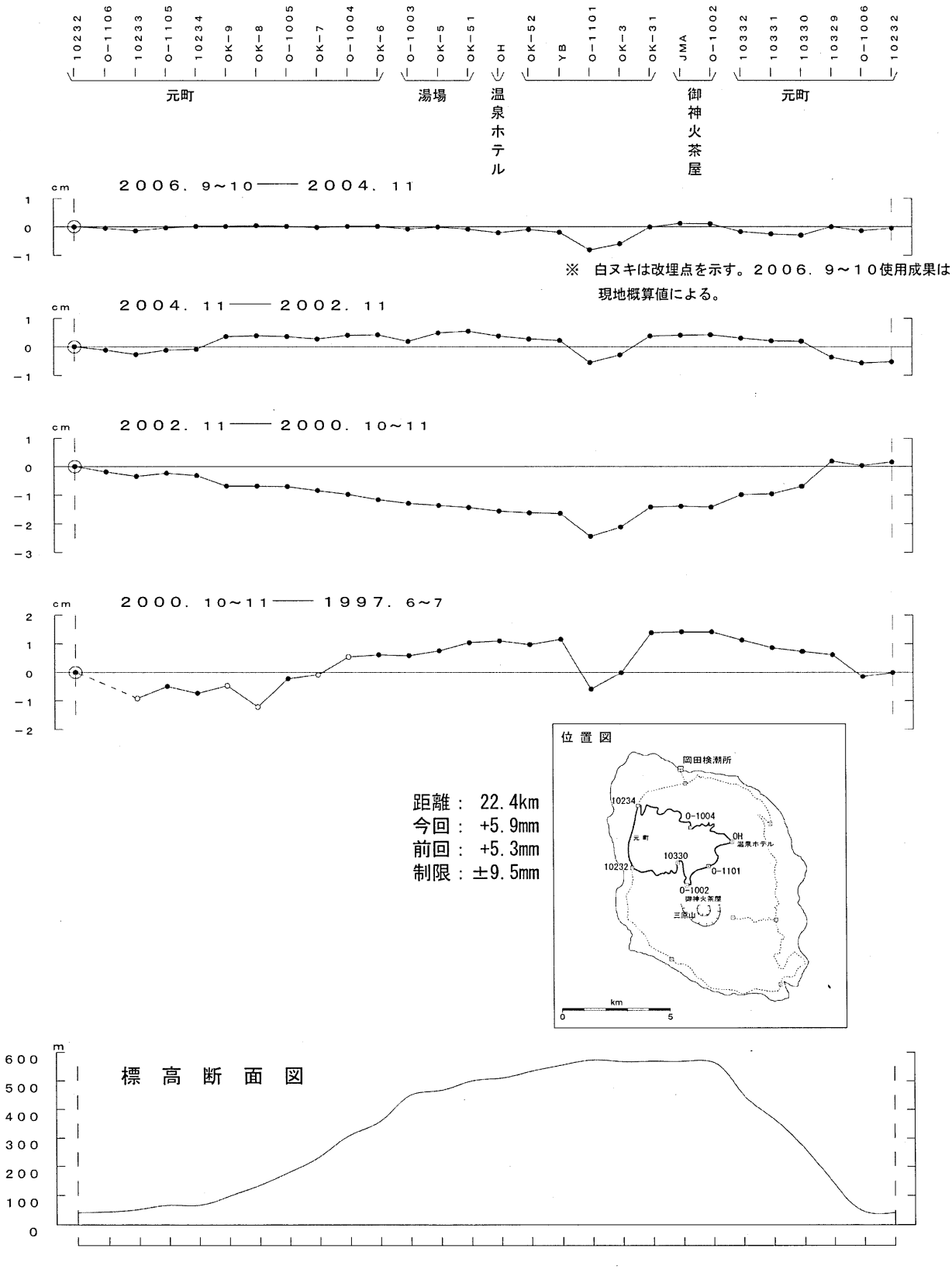
第2図は，外周，内周および南東部の路線の結果を総合した 1993（1994）-2006 間の伊豆大島の上下変動である。島の中央部が隆起する大きな傾向はあるが，南東部など局所的な沈降を示す場所もあり，単純な島中央部を中心とした膨張だけでは上下変動は説明できない。

* 2007 年 1 月 22 日受付



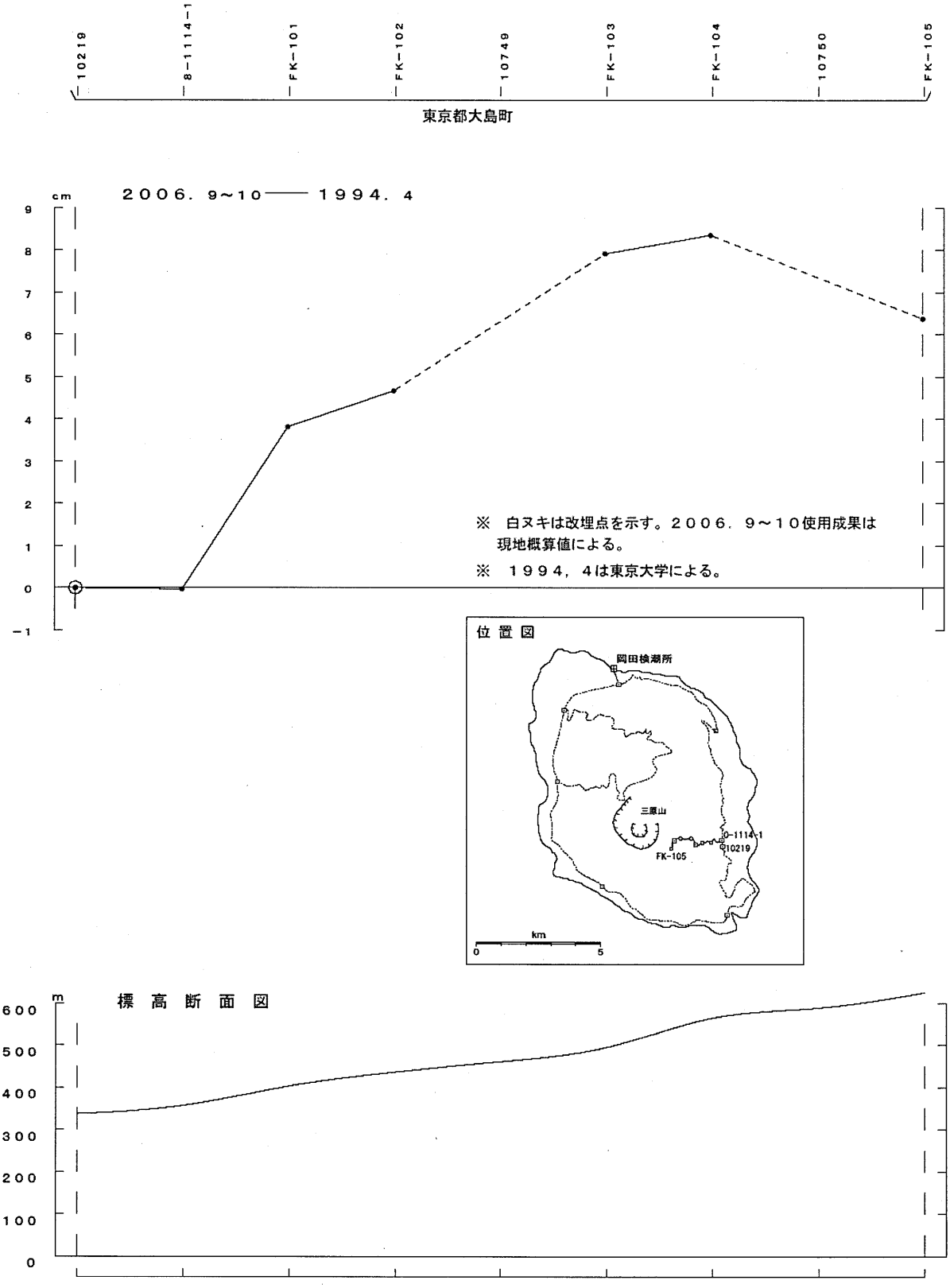
第1図(a)　伊豆大島の水準測量結果

Fig. 1(a)　Results of the repeated precise leveling in Izu-Oshima



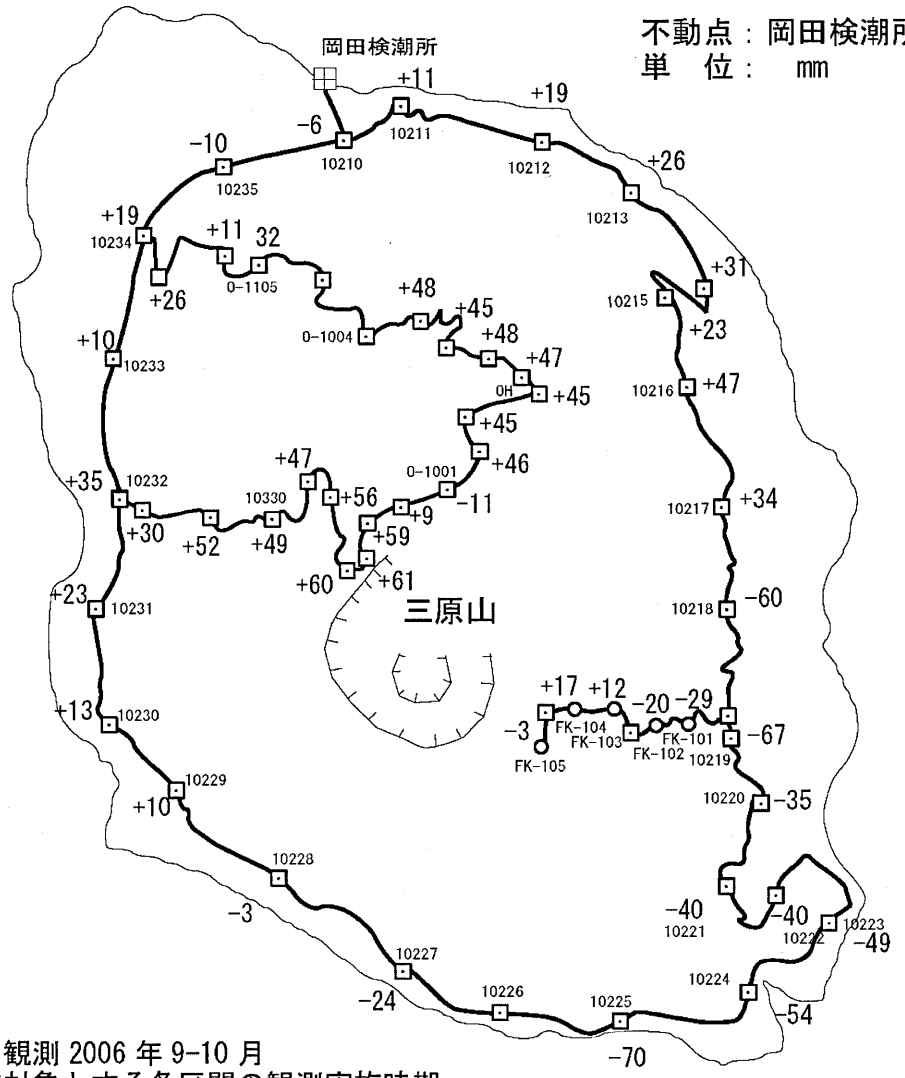
第1図(b)　伊豆大島の水準測量結果

Fig. 1(b)　Results of the repeated precise leveling in Izu-Oshima



第1図(c)　伊豆大島の水準測量結果

Fig. 1(c)　Results of the repeated precise leveling in Izu-Oshima



今回観測 2006 年 9-10 月
比較対象とする各区間の観測実施時期
　外周：1993 年 11-12 月
　10219 ～ FK-105：1994 年 4 月（東京大学）
　10232 ～ 10234：1994 年 7 月
今回観測：網平均
比較対象とする各区間の観測実施時期
　外周：網平均
　10219 ～ FK-105：外周の網平均結果より 10219 を使用
　10232 ～ 10234：外周の網平均結果より 10232、10234 を固定し網平均を実施

第２図　伊豆大島の上下変動

Fig. 2　Vertical crustal deformations by repeated precise leveling in Izu-Oshima